

時間割コーディネーター／ 授業ソムリエ(三者協働) を発足させる

【D班】まりあ(教) うえすぎ(職) みやけ(職) さかい(学)

1 問題の所在

- 学生がシラバスをほとんど読まずに、サークルや部活の先輩、周囲の友達からの口コミやネット上の噂などを頼りに履修する授業を決めてしまっている。
⇒結果として、自ら学ぶ意欲や術を失っている。
- 大学側の意図は、それぞれの学生が自分の興味や関心、専門分野、人生プラン等に応じて自由に多種多様な時間割を組めるように、幅広い種類・内容の授業を提供している。
- 年を追うごとに研究上の専門性が高まったり、技能の向上が得られることを予想している。

2 問題の原因として考えられること

- 授業についての一番すぐ手に入る情報が、**学生間の不確かな口コミ**である。
- 「単位を取得する」(**単位が取ればいい**)という発想・価値観が学生の間で蔓延している。
- 取りたい(おもしろい)授業よりも、**時間割のマスを埋めるのに都合がいい**授業を優先してしまう。
- 小中高までと違い、大学では時間割が**自由に決められること**が学生にとっては**不安**である。
- 自分の設けた**軸に沿って将来を見すえて「時間割を組む」**ということをしなければ、**学術的・技能的な進歩が見込めないことを知らない**(**小中高では生徒自身がそれを考えなくてよかった**)

3 現状の分析

- 学生たちの「時間割」の質が低いことを証明するデータは存在しない
- 現在手に入る有益なデータは、「卒業時満足度」と「授業カリキュラム」の連関を示すデータである（第4回研修の矢田尚也先生の講義参照）。
- それによると、授業カリキュラムの満足度は**全体の満足度（大学への満足度）に直結**し、共通教養科目への満足度がやや低い。

3 現状の分析(続き)

- ⇒従来の大学における評価単位は「授業」であって、「その授業が魅力的か」(教員はいい授業を提供しているか)が評価の対象であり、「**時間割**」(学生は魅力的な時間割にもとづいて、有意義な学び生活を送っているか)は評価単位とはなっていない。
- ⇒しかし、学生にとっては自分たちの生活や学びの質は**時間割総体によって総合的に左右**され、個別の授業ごとに決まるわけではない
- ⇒学生にとっては、専門性が高かったり、人生・社会人スキルにつながっていたり、生活にかかわる内容の授業が積極的に履修したいと思えるのでは？

4 改善の方向性

- 学びの質を向上するためには「授業を(単発で)選ぶ」ではなく、「**トータルで魅力的な時間割を組み立てる**」発想を学生に持ってもらうことが大事なのは。
 - ⇒ 高校までは科目同士の関連は薄い(数学と英語と化学)。
大学では、**科目同士の内容が呼応し合い、重層的に蓄積され、その中からユニークな研究や技能が開花する。**
- 大学生は、**魅力的でよく練られた時間割にもとづく発見に満ちた大学生活**(研究+さまざまな技能トレーニング)を送るのが望ましい。

5 提案内容

- 多角的に見て、魅力的でよく練られた時間割とは？

学生目線: 本人にとって生活や趣味と直結している(本人の熱量が高い)

教員目線: 専門性やオリジナリティが高く、卒業論文や卒業研究の萌芽を感じさせる(学術的な質が高い)

職員目線: キャリアデザインや人生プランと連動している(社会の一員として魅力的)

5 提案内容(続き)

- 学生・教員・職員は、**それぞれが有益な目線**を持っているので、三者が協働で、時間割を組むサポートにあたるのがよい。
- **三者協働のチーム**を発足させて、そのチームで「時間割コーディネーター」と「授業ソムリエ」という2つの業務をおこなえるように準備する。
- 「**時間割コーディネーター**」は、窓口に来た学生に**ヒアリング**しながら、その学生の関心や趣味、将来やりたいことなどにもとづいていくつかの**軸を発見**する。
- 「**授業ソムリエ**」は、その軸にもとづいて、チームで構築した**ピックアップ方法**を使って**オススメの授業**をリストアップし、提案する。

6 達成目標

- このチームに必要なメソッドや経験値を集積し、サービスを提供することによって、学生間で言われる「**楽単**」や「**無難にこれ取っておけ**」といった不確かな「先輩の知恵」的なクチコミ(表面的で、必ずしもそのひとに合っているわけではないアドバイス)を大幅に上回る、**質の高い知識・ノウハウ**が集積される。
- 「**ひとりひとりの**学生さんが**ワクワク**するような、プロの研究者(教員)の目から見ても専門性が高く、社会人(職員)の目から見ても有用性の高い、その学生さんの**オリジナリティ**や**クリエイティビティ**を感じられるような時間割づくり」をバックアップできるようにする。

7 提案内容に付随する試み

- ① **履修制限を緩和**して、授業の種別にかかわらず選べる自由度を上げて、今よりもそれぞれの学生の**オリジナリティ**を出しやすくする(「満遍なくいろんな種別を取る」ではなく、「**偏っててもいいからユニーク**」という発想)。
- ② もっと**生活に直結**するような授業(学生が本心からおもしろいと思えるような授業)を増やす方向で、先生たちに働きかける。
- ③ 日本人にはなかなかピンと来にくいアクティブラーニングを、教員に、**ロールプレイで学生役として体感**してもらい、理解を深めてもらう講習等をおこなう(異文化は座学では理解しきれない)。

8 達成目標のチェック(アセスメント)

- この新サービスの改善や有用性の確認のために、新たに取
りたいデータは、このサービスを利用した学生と利用しなかつ
た学生の比較である。
- 「時間割が卒研に役立った度合」「時間割がキャリアデザイン
に役立った度合」の2点に着目したい。
- アンケートを取るタイミングとしては、4年時のはじまりや卒業
時などが考えられる。
- 矢田先生たちと協力して、このデータを取る仕組みを構築し
たい。